

市制60周年記念



第22回

全国俳句大会 in 北九州

～久女を育み、多佳子を生んだ俳句の地～

入賞作品集

目 次

- 大会概要 P 1
- 選者紹介 P 2
- 入賞作品（事前投句） P 3
- 入賞作品（当日投句） P13
- 吟 行 P18
- 見学会 P19
- 俳句大会・講演 P20
- 表彰式 P21

実行委員会委員

名誉会長	武内 和久	北九州市長
会長	近藤 晃	（公財）北九州観光コンベンション協会専務理事
副会長	福本 弘明	北九州俳句協会会長
副会長	北里 勝利	北九州市産業経済局長
委員	岸原 清行	福岡県俳句協会顧問
委員	浜 和枝	北九州市婦人会連絡協議会会長
委員	沼田 文子	北九州市女性団体連絡会議会長
委員	今川 英子	北九州市立文学館館長
監事	久末 隆彦	久女・多佳子の会会長

主 催

北九州市、(公財)北九州観光コンベンション協会、
全国俳句大会in北九州実行委員会

後 援

(公社)日本伝統俳句協会、(公社)俳人協会、現代俳句協会、角川「俳句」、月刊俳句界(株)文學の森、国際俳句交流協会、俳句ユネスコ登録推進協議会、北九州俳句協会、北九州市教育委員会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、日本経済新聞北九州支局、時事通信社北九州支局、(一社)共同通信社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、テレQ

(順不同)

大会概要

日時 令和5年3月4日(土)～5日(日)

会場 北九州国際会議場(福岡県北九州市小倉北区浅野 3-9-30)他

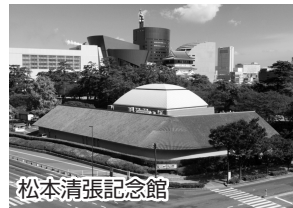
開催プログラム

3月4日(土)

9:30～15:00 吟行ツアー「若松探訪、プラネタリウムの星空」
15:00～17:00 当日投句受付

3月5日(日)

8:30～10:00 当日投句受付
9:00 大会受付開始
9:30～12:00 自由見学会(周遊バス運行) ※バス乗車及び施設観覧は無料



12:00 イベントホール開場
13:00 開会(主催者あいさつ他)
13:10～14:10 講演会
(演題) 女性の時代
(講師) 西村 和子



西村 和子 先生

休憩

14:25～14:30 選者紹介
14:30～15:15 「事前投句の部」表彰式、選評

休憩

15:30～16:10 「当日投句の部」表彰式、選評
閉会

選者紹介

※50音順・敬称略



いまい しょうこ
今井 肖子

昭和29年 神奈川県生まれ
昭和53年 津田塾大学学芸学部数学科卒業
同年より私立中高教員となり現在に至る
平成12年 母・千鶴子の手ほどきで俳句を始める
平成13年 稲畑汀子に師事、「ホトトギス」、社団法人日本伝統俳句協会に入会
平成15年 第14回日本伝統俳句協会新人賞受賞
平成17年 第16回日本伝統俳句協会賞受賞
平成20年 「ホトトギス」同人
句集 「花もまた」
その他 公益社団法人日本伝統俳句協会本部講師
愛媛新聞女性俳壇選者



うだ きよこ
宇多 喜代子

昭和10年 山口県生まれ
昭和28年 俳誌「獅林」に入会
昭和31年 武庫川大学短期大学部食物科(生活科学科)卒業
「獅林」同人を経て、
昭和45年 創刊「草苑」に入会、
同誌同人 桂信子氏に師事
現在は「草樹会員代表」
第29回現代俳句協会賞受賞
第35回蛇笏賞受賞
平成13年 紫綬褒章受章
平成14年 第27回詩歌文学館賞受賞
平成24年 文化功労者顕彰
令和元年 句集 「りらの木」「半島」「夏月集」「象」「森へ」「宇多喜代子俳句集成」他
編集著 「片山桃史集」「藤木清子全句集」「寺田京子全句集」
文集 「つばくろの日々」「わたしの歳時ノート」「篠原鳳作」「田んぼのまわりで」「ひとつたばの手紙から」「古季語と遊ぶ」「わたしの名句ノート」「女性俳句の光と影」「暦と暮らす」他
その他 現代俳句協会特別顧問
公益社団法人日本文藝家協会会員
読売新聞俳壇選者



おがわ はるこ
小川 晴子

昭和21年 千葉市生まれ
立教女学院高校を経て、聖心女子学院英語専攻科卒業
昭和41年 英国聖心に留学
祖母・中村汀女、母・小川壽美子に師事
平成17年 第一句集「花信」
「風花」副主宰
平成24年 第二句集「摂津」
世田谷区俳句連盟会長
平成29年 「今日の花」主宰
令和元年 第三句集「今日の花」
句集 「花信」「摂津」「今日の花」
その他 公益社団法人俳人協会評議員
公益社団法人日本文藝家協会会員
「三越カルチャーサロン」講師
「朝日カルチャー」講師



くろだ ももこ
黒田 杏子

昭和13年 東京都生まれ
昭和31年 東京女子大学入学と同時に、俳句研究会「白塔会」に入り山口青邨の指導を受け、「夏草」に入会
昭和42年 青邨に再入門
昭和57年 第一句集「木の椅子」で、現代俳句女流賞及び俳人協会新人賞受賞
昭和61年 夏草賞受賞
平成2年 師没後に「藍生」創刊、主宰、同人誌「件」同人
平成7年 第三句集「一木一草」で俳人協会賞受賞
平成23年 第五句集「日光月光」で第45回蛇笏賞を受賞
平成30年 「兜太TOTA」(藤原書店刊)編集主幹
令和2年 第20回現代俳句大賞受賞
句集 「木の椅子」「水の扉」「一木一草」「花下草上」「黒田杏子句集成」「日光月光」「銀河山河」第一句集
著書など 「木の椅子」増補新装版
「俳句列島日本すみずみ吟遊」「布の歳時記」「俳句の玉手箱」「暮らしの歳時記」「手紙歳時記」「語る兜太(きき手)」「存在者 金子兜太」「証言・昭和の俳句」増補新装版「黒田杏子の俳句」(高田正子著)
その他 公益社団法人俳人協会名誉会員
日経俳壇選者



てらい たにこ
寺井 谷子

昭和19年 福岡県小倉市(現北九州市)に生まれ、10歳より俳句を始める
昭和41年 明治大学文学部演劇学専攻卒業。「自鳴鐘」編集に携わる
平成4年 第39回現代俳句協会賞、北九州市民文化賞を受賞
平成14年 「NHK俳壇」選者
平成19年 「自鳴鐘」主宰
平成28年 第7回桂信子賞を受賞
平成29年 第16回山本健吉賞を受賞
句集 「笑窪」「以為」「街・物語」「未来」「人寰」「母の家」「夏至の雨」
エッセイ・評論 「四季を見る」「紙の碑」「俳句の海へ 言葉の海へ」
その他 現代俳句協会副会長
公益社団法人日本文藝家協会会員



にしむら かずこ
西村 和子

昭和23年 神奈川県生まれ
昭和41年 慶応義塾大学文学部入学後、慶大俳句に所属し、清崎敏郎に師事
昭和59年 第7回俳人協会新人賞受賞
平成8年 行方克巳と「知音」創刊
平成19年 句集「心音」により第46回俳人協会賞受賞
句集 「夏帽子」「窓」「かりそめならず」自註「西村和子集」「心音」「鎮魂」「季題別 西村和子句集」「椅子ひとつ」「句自解ベスト100」「わが桜」
著書 「虚子の京都」第19回俳人協会評論賞受賞
「添削で俳句入門」「季語で読む源氏物語」「俳句のすすめー若き母たちへー」「季語で読む枕草子」「気がつけば俳句」「季語で読む徒然草」「清崎敏郎の百句」「自由切符」
その他 公益社団法人俳人協会常務理事
公益社団法人日本文藝家協会会員

第11回大会から、選者としてご尽力いただきました黒田杏子先生が、令和5年3月13日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入賞作品
(事前投句)

特別賞

■ 全国俳句大会 in 北九州大賞

月上げて阿蘇の夜空の高くなる

(福岡県 大牟田市) 田中 黎子

宇多喜代子 先生 特選

黒田 杏子 先生 入選

寺井 谷子 先生 入選

◆ 受賞者の声

第一回から参加しています。募集句で特選を頂いたのは初めてです。嬉しい驚きです。昨年の十一月の満月は心にしみる美しさでした。しかし、九月の満月は比べものにならないほど高く小さかった。その時、いつか見た阿蘇の月を思い出しました。今日と同じ十一月の満月でした。隣には夫も居ました。有り難うございました。

■北九州市長賞

夜の百合かがみの中に匂ひけり

(埼玉県 越谷市)

鈴木 恭子

小川 晴子 先生 特選
寺井 谷子 先生 入選

◆受賞者の声

この度、受賞のお知らせを頂き望外の幸せでございます。二十年程前、宮崎の結社「権の実」でお世話になって以来、私にとって九州は故郷のような場所になっていきます。現在八十七歳になりましたが俳句は私の元気の源です。命ある限り俳句と関わっていききたいと念じています。選に当たられました先生方に、厚く御礼申し上げます。

今井 肖子 選

■特選（三句）

戦なき土へ大根蒔きにけり

（長崎県 島原市） 八木 花栗

【選評】

二〇二二年は、各世代が様々な思いを以て戦争について考えた一年だった気がする。掲句の作者は大根を蒔いている、彼の地では肥沃な大地に種を蒔くこともままならないだろうと思いつながら。古くから人々に好まれながら、時に貧しさの象徴のように言われることもある大根。戦なき土、という上五が静かに強く語っている。

囀りの真つただ中に棟あがる

（福岡県 直方市） 竹内 敬子

【選評】

春光、春の景色が人々の歓声と共に明るく広がる。上五から中七で読み手も囀りに包まれ下五で一氣に景が立つ、という仕立ても巧み。

春の星母の軽さが手に残る

（茨城県 古河市） 松本 幸子

【選評】

亡くなられて間もないのだろうか。母の軽さが、の「が」には、それだけが、という切ない思いが感じられるが、その切なさを春の星のやわらかい光が包み込んでくれるかのようだ。

■入選（十二句）

八月や靴脱ぎ石に火の記憶

（東京都 大田区） 青木 栄子

少女らのきつくストーブ取り囲む

（新潟県 三条市） 宮島 敏明

月蝕の始まり零余子飯の噴く

（福岡県 北九州市） 田崎 ひろ紅

日だまりの如く子ら立つ赤い羽根

（神奈川県 藤沢市） 谷口 裕美

金木犀平和な風の来て匂ふ

（鹿児島県 鹿児島市） 和田 明子

卒寿には卒寿の未来天高し

（福岡県 北九州市） 金子 満男

ラガー等にはや太陽は傾きぬ

（埼玉県 所沢市） 中村 玲子

俎板にどすんと鯉の青光り

（東京都 世田谷区） 菊田 和音

かたき音にはかに混じる小夜時雨

（福岡県 北九州市） 小林 浩代

傘寿まだ遊びの途中女正月

（福井県 福井市） 前川 康子

白虹の句碑にたゞむ春日傘

（福岡県 鞍手町） 井上 一子

置きざりにされたる戦車冬来る

（熊本県 熊本市） 矢澤 幸乃

宇多 喜代子 選

■特選（三句）

春隣欠伸ふくらむ乳母車

（大阪府 大阪市） 北芝 ゆう子

【選評】

暖かな冬日を受け乳母車の中の赤ちゃんがねむそうにしている。小さい口を精一杯開けて幾度も欠伸をしている。「ふくらむ」に赤ちゃんをとりまくのどかな雰囲気伝わってくる。春になりきる前の赤ちゃんの様子がやがて来る春の到来を知らせてくれる。

月上げて阿蘇の夜空の高くなる

（福岡県 大牟田市） 田中 黎子

【選評】

高々とそびえる阿蘇の山。夜空の高さは即ち山の高さである。そこに折からの月が出ている。月に照らされた山陵がその輪郭をくつきりと際立たせている。山の上に月が出ているという何ほどでもない景が、一枚の絵画のように見えてくる。

セロファンのやうな音して赤とんぼ

（神奈川県 川崎市） 大西 主計

【選評】

さて「セロファンのやうな音」とはどのような音であろう。手で押しつぶした時のガシャガシャという音が思い出される。そのような音を赤とんぼに重ねる。赤とんぼとセロファンに共通するのは、セロファンの透明と赤とんぼの翅の透明。それを音に託した句。

■入選（十二句）

山塊の余白を鳥の渡りけり

（島根県 雲南市） 八幡里 洋

一本の樹に一本の冬の影

（秋田県 秋田市） 安井 武

あやふやな浮力を泳ぐ冬の蝶

（福岡県 北九州市） 岩坪 英子

赤蜻蛉独りぼつちの子にとまる

（大分県 大分市） 豊東 美智子

母いつも何か煮てゐる二月かな

（福岡県 福岡市） 風街 ゆう子

風と来てまた風になる稻雀

（福岡県 荊田町） 比恵島 由紀子

永遠と刹那を隔て白障子

（滋賀県 栗東市） 小野 雅子

月を待つ陶椅子に髪湿りくる

（福岡県 直方市） 西尾 昭二

風寄りて水のたのしき未草

（東京都 江東区） 染井 かしこ

初夏の少女胸から歩き出す

（大分県 大分市） 阿部 正調

猫柳いつもどこかに水の音

（広島県 広島市） 谷口 一好

小川 晴子 選

■特選（三句）

夜の百合かがみの中に匂ひけり

（埼玉県 越谷市） 鈴木 恭子

【選評】

静まり返った夜に、ふと鏡を見ると、自分と見事な百合が映し出されている。慌ただしく過した昼間には気が付かなかつた強い百合の香を改めて愛でる刻を得たのである。御洒落な絵画のような秀句である。

発つ駅のご当地ソング春の旅

（東京都 世田谷区） 石本 悦夫

【選評】

新型コロナウイルス感染予防の為に封印していた「春の旅」が実現した喜びが伝わってくる。その上に駅長の粋なはからいで、「ご当地ソング」が流れて見送ってくれたのだ。長閑な春の一日を過した心浮く思いに溢れている。

糠床を混ぜる手の冷え久女の忌

（福岡県 北九州市） 永野 ひとみ

【選評】

一月二十一日は杉田久女の忌日である。糠床の手入れは365日欠かすことが出来ないものだ。愛情を込めて、糠床を混ぜる手が、寒さの底の冷えを覚えた日であった。遠き日の久女の暮らしに思いを馳せる日でもあった。

■入選（十二句）

暗むほど鶴発ち天地とよもせり

（愛知県 豊明市） 尾崎 恵美子

全開の孔雀の羽根の花の風

（東京都 新島村） 曾根 新五郎

初時雨濡れて定まり行く心

（兵庫県 神戸市） 玉手 のり子

人の世に終止符はなし罫雲

（東京都 渋谷区） 高瀬 和子

牡丹の芽風の吐息の整へり

（愛知県 岡崎市） 松崎 成子

あの頃のままの学び舎冬銀河

（東京都 世田谷区） 松村 直央

筑紫野の大地押し上げ路の臺

（福岡県 芦屋町） 桐山 甫

ミニカーの一個で懐き一茶の忌

（神奈川県 川崎市） 鈴木 典子

流星や豊後の空を使ひ切り

（福岡県 福岡市） 末園 薫

浅間嶺を入道雲の鷲掴み

（東京都 世田谷区） 花土 公子

水琴窟秒違はずに冬刻む

（東京都 新宿区） 岩田 玲子

都井岬の緋扇の花放れ駒

（神奈川県 横浜市） 千田 道晋

黒田 杏子 選

※故・黒田先生に生前いただいた事前投句の選です。
これまでのご厚情に深く感謝申し上げます。

■特選（三句）

強きような土偶の女豊の秋

（長崎県 佐世保市） 牛飼 瑞栄

【選評】

近年各地で土偶展が開催されている。また新聞や雑誌などでも土偶に関する記事を掲載。土偶と現代を生きる私達の距離が近くなった。顔の表情、体型などにあふれるパワー、生命感を感じとられた卒直な作者。豊の秋でいよいよこの句魅力を増した。

晩年と言ふ楽しさの日記果つ

（福岡県 岡垣町） 神谷 かよ

【選評】

百歳以上の男女がこの国に七万人余り……。高齢をたのしく、いきいきと過しておられる方々が年毎に増えている。晩年という楽しさ。お元気で毎日が愉快。すばらしいことだ。日記果つと止めたところに充足感があふれている。作者の表情が見えてくるようだ。

戦争を知らずに生きて敬老日

（神奈川県 伊勢原市） 高梨 裕

【選評】

戦後にお生れの作者。しかしその年代の方々も敬老日を祝われるお立場に。同じ年代、同じ感想をお持ちの方がどっと増えた。この平和な日本がずっと続いてほしいと希う。昭和十三年生れの私は疎開児童の体験がある。ともかく戦争はいけない。

■入選（十二句）

無花果や無音といふは平和なり

（宮崎県 延岡市） 新名 いち子

母さんで終へる人生大根干す

（愛知県 尾張旭市） 川崎 美智子

鳩が舞ひ鐘が鳴るなり原爆忌

（石川県 金沢市） 竹俣 修

ひとりよりふたりが寒い夜もあり

（福岡県 宗像市） 三船 照子

黙読は死者の閑けさ夜の秋

（東京都 新島村） 曾根 新五郎

泣いて生れ笑いて死なむ曼殊沙華

（福岡県 北九州市） 東 泰

月上げて阿蘇の夜空の高くなる

（福岡県 大牟田市） 田中 黎子

年惜しむ句集「ひとり」のそのひとり

（徳島県 徳島市） 新居 三和

つくばひに水を足しおく十三夜

（栃木県 宇都宮市） 光 光星

ダブルスを組む百五十歳雲小春

（島根県 浜田市） 大島 一二三

父と酌む母の忌日や温め酒

（兵庫県 伊丹市） 大西 美知子

兜太を偲び太き字で書く寒見舞

（大分県 佐伯市） 吉武 厚男

寺井 谷子 選

■特選（二句）

立つてまたコロナの春をあゆむ子よ

（福岡県 北九州市） 羽犬塚 結

【選評】

コロナ禍の中、新しい生命の誕生に恵まれる。喜びを上廻る不安と緊張の中での出産。小さなフェイスシールドに守られながら嬰の成長は早い。這えば立て、立てば歩め：の中で、元気に育つ。閉塞感に潰されそうな大人の世界への光である。

ありがとう最後の言葉てふ寒さ

（福岡県 大牟田市） 石橋 武子

【選評】

今生の別れであろう。私も一昨年の暮に家で養生中の夫を見送った。苦しそうでもないが、何かしら常と違う。「ありがとう」と言うので「まだ早いでしょ」と言うのと、目を合わせてやわらかい微笑を浮べて静かに逝った。旧仮名使用なので、「ありがとう」と。

■入選（十二句）

ラガー等にはや太陽は傾きぬ

（埼玉県 所沢市）

中村 玲子

らまでもいつまでも八月の染み

（大分県 中津市）

今田 幸正

月上げて阿蘇の夜空の高くなる

（福岡県 大牟田市）

田中 黎子

豆筵丸めて曳いて陽が斜め

（岐阜県 可見市）

福井 英敏

然候献上河豚の菊づくり

（福岡県 北九州市）

権代 政樹

秋蝶にその魂のやうな影

（山口県 下関市）

中村 元代

夜の百合かがみの中に匂ひけり

（埼玉県 越谷市）

鈴木 恭子

螢の星になりしか俱会二処

（山口県 下関市）

金澤 万里

白虹の句碑にたずむ春日傘

（福岡県 鞍手町）

井上 一子

大阿蘇の牛が相寄る夏の雲

（福岡県 大川市）

中村 和男

ミニカーの一個で懐き一茶の忌

（神奈川県 川崎市）

鈴木 典子

玄海に足腰強き虹立てり

（島根県 松江市）

寺津 豪佐

西村 和子 選

■特選（三句）

折り紙のはじめは平ら十三夜

（徳島県 徳島市） 松尾 初夏

【選評】

誰もが見て知っていることだが、改めて言われるとはつとずる句。平面の紙を折ることで立体の形あるものになる不思議と感動。十三夜に折つているとも受け取れるが、この月が満月に向かっている途中の、まだ不完全である点に、響き合うものを感じた。

朝刊を待つ夕刊を待つ母の冬

（福岡県 北九州市） 唐鎌 美鶴

【選評】

年齢のせい朝まだ暗いうちに目が覚めてしまうお母さん。朝刊を心待ちにしている。日が短い冬の午後は、為すこともなく炬燵に入つて、夕刊が来るのを待っている日常なのだろう。現在の社会状態を考え合わせると、新聞が唯一の外界からの刺激なのだろう。

秋の蟬風より細く鳴きにけり

（熊本県 玉名市） 高木 ミツヨ

【選評】

夏の間はあんなに威勢よく鳴き立てていた蟬も、秋になると声が小さくなる。台風が近づいて来る時などは風音の方が荒々しい。秋の蟬の衰えを、風音と比較して描写している点に、季節の移りゆきが描かれている。「細く」の一語が効果的。

■入選（十二句）

朝顔や下駄が嬉しき女の子

（長崎県 大村市） 森 径子

海峡を抜けてタンカー春動く

（福岡県 福岡市） 飯田 絹子

よく忘れよく思ひ出す小春かな

（香川県 高松市） 肥塚 英子

芒野を抜け来て浮力つきにけり

（大分県 大分市） 横山 八千代

微笑仏めきし老女の唇売

（長崎県 佐世保市） 牛飼 瑞栄

水鳥の音して闇の深まりぬ

（東京都 江東区） 市川 千恵美

浮かび出し海女の見てゐる蟹気楼

（神奈川県 茅ヶ崎市） 塚本 治彦

船底に一夜を明かす帰省かな

（福岡県 北九州市） 國貞 雅嗣

立ち止る今笹鳴のしたやうな

（神奈川県 横浜市） 黒山 敏恵

高原の風どこまでも見えて秋

（福岡県 筑紫野市） 宮田 良子

蔦かづら車窓を打ちて自由席

（宮崎県 延岡市） 森山 栄子

蚯蚓鳴く推せど敲けど開かぬ門

（福岡県 北九州市） 松本 ゆきこ

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

入賞作品(当日投句)

特別賞

■ 全国俳句大会 in 北九州大賞

海峡の波に波間に風光る

(鹿児島県 鹿児島市) 内 ひとみ

今井 肖子 先生 特選
寺井 谷子 先生 入選

■ 北九州市長賞

ボイジャーの見つけし星よ春の夢

(東京都 世田谷区) 菊田 和音

小川 晴子 先生 入選
寺井 谷子 先生 入選

今井 肖子 選

■特選（二句）

ごんぞうを束ねる女玉椿

（愛知県 半田市）

稲葉 京閑

【選評】

かつて石炭荷役の「ごんぞう」で賑わった北九州市若松の吟行句。束ねるといふ思い切った言い方と、椿を愛でる玉椿という季題が巧みである。

海峡の波に波間に風光る

（鹿児島県 鹿児島市）

内 ひとみ

【選評】

波の文字を重ねた中七は言えそうでなかなか言えない。風光る、の明るさによって春の海の情景が生き生きと感ぜられる。

■入選（八句）

祖に一人ごんぞう居りぬ涅槃西風

（福岡県 北九州市）

重住 志津子

一列の風力発電桜東風

（大阪府 池田市）

鈴木 みのり

修験者の白き地下足袋草萌ゆる

（福岡県 行橋市）

宮 永 由紀子

ボイジャーと旅をしてゐる春の夢

（福岡県 北九州市）

小林 浩代

ものの芽や水ある星に生き抜かん

（東京都 世田谷区）

菊田 和音

無機質な工場地帯霾れり

（愛知県 半田市）

加藤 清美

強東風やごんぞう小屋に濤荒し

（福岡県 みやこ町）

大堀 すが女

洞海湾光り皿倉山霞み

（東京都 狛江市）

横山 万里

小川 晴子 選

■特選（二句）

草萌の河童屠りし野に集ひ

（愛媛県 松山市）

松井 洋子

【選評】

若松に暮らした作家・火野葦平の河童退治の話を句材にした句。暖かくて風もなく、草が萌え……。吟行日和の中、たくさん参加者と一緒に、その情景に共感した。

■入選（八句）

夕東風やメートルの待つ駅に降り

（愛媛県 松山市）

松井 洋子

自転車と渡船三分鳥帰る

（福岡県 北九州市）

芳賀 登喜子

清張館謎の空白燕来る

（大分県 大分市）

小山 さち子

若松は時の停車場春の雲

（山口県 下関市）

内田 たえ

椿ひとつ落ちていくつものあたり

（福岡県 北九州市）

高濱 蛙 聲

連山も海も朦朧春の鳶

（滋賀県 栗東市）

小野 雅子

【選評】

広い景色を前にしてお手本になるような句。季語は大事で、春の鳶と陳腐にならずに詠んだところが巧みである。ゆったりのんびりした感じが伝わってくる。

動くもの陽炎ばかり村は過疎

（福岡県 北九州市）

倉迫 順子

かげろふや葦平・哲を生みし郷

（福岡県 岡垣町）

岸原 邦代

ボーイジャーのを見つけし星よ春の夢

（東京都 世田谷区）

菊田 和音

寺井 谷子 選

■特選（二句）

若松南海岸通り風光る

（福岡県 北九州市）

原田 俊子

【選評】

吟行句では、訪れた地名、場所＋「季語」だけで一句できる、ということの実証作と言える。ただ読み手の心を動かす作者の純粹な感動と、季語の質が一義的には必要ということも教えてくれる。「風光る」の躍動感ある季語の選択は見事。

師に逢うて別るる明日鳥雲に

（福岡県 福岡市）

塚本 泰

【選評】

遠方からの参加であろうか。コロナ禍に隔てられた中、漸くの師との対面。その喜びが深いだけに、明日の大会後に待つ来年を約しての別れが切ない。仰げば「鳥雲に入る」頃の曇り空が拡がる。師との時への純な切望は、「恋」にも似るのか。

■入選（八句）

繫留の海保四杯や春の月

（福岡県 北九州市）

川澤 紀子

久瀧の三つ四つありし旅うらら

（兵庫県 西宮市）

柄川 武子

海峡の波に波間に風光る

（鹿児島県 鹿児島市）

内 ひとみ

春昼や溶接青き火を放つ

（福岡県 福岡市）

高山 國光

モノレールに零士の銀河風光る

（福岡県 北九州市）

山野 明子

ボージャーのを見つけし星よ春の夢

（東京都 世田谷区）

菊田 和音

梅苑に不戦の絵馬を確と結ぶ

（福岡県 荏田町）

比恵島 由紀子

洞海湾光り皿倉山霞み

（東京都 狛江市）

横山 万里

3月4日(土) 9:30~15:00

吟行「若松探訪、プラネタリウムの星空」

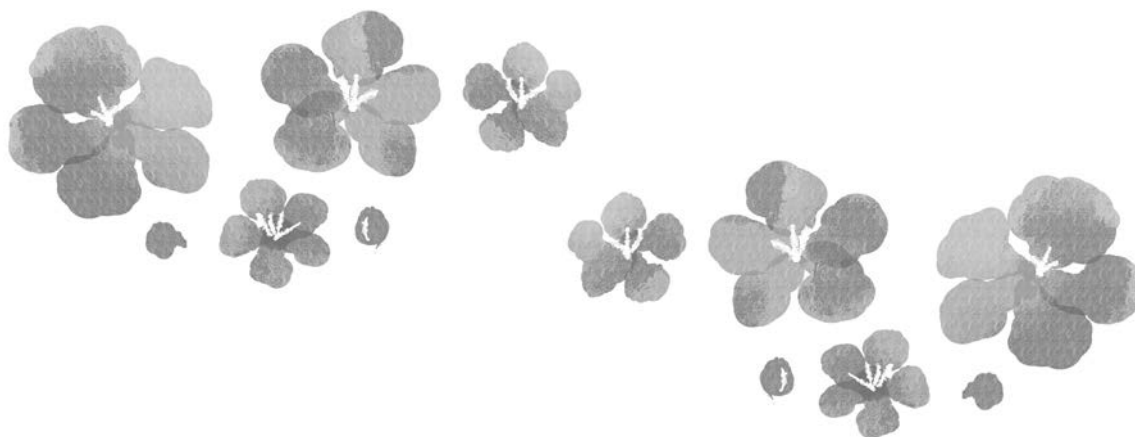
かつて石炭積出港として荷役をする“ごんぞう”で賑わった北九州市若松区の南海岸通りと高塔山を巡りました。午後からは、北九州市科学館「スペースラボ」のプラネタリウムで無人惑星探索機・ボイジャーによる宇宙の旅を観覧しました。



3月5日(日) 9:30~12:00

見学会

大会開会前に周遊バスを運行し、「文学館」「松本清張記念館」「平和のまちミュージアム」を巡る無料見学会を行いました。



3月5日(日) 13:00~16:10

俳句大会

開会にあたり、武内市長からご来場の皆様に歓迎の挨拶がありました。コロナ禍になってから誌上で入賞作品を発表するのみでしたが、4年ぶりに開催した会場では、多くの方が句友との再会を喜んでいました。大会では、「事前投句の部」「当日投句の部」それぞれの表彰式と選者選評が行われました。



市長挨拶



北九州市長
武内 和久

講演

■講 師 西村 和子 先生

■演 題 「女性の時代」

大会選者の一人である西村和子先生に「女性の時代」と題したご講演をいただきました。講演では、久女ら13人の女性俳人の名句を紹介し、詠んでいるのは家事や子育てなどのさりげない日常で、特別なことではないが一心に生きたからこそいい作品ができると解説。女性たちの俳句を読み返し一生懸命生きましようと呼びかけました。



表彰式



「事前投句の部」大賞受賞
田中 黎子 さん



「当日投句の部」大賞受賞
内 ひとみ さん



「当日投句の部」市長賞受賞
菊田 和音 さん

大会選者



今井 肖子 先生



小川 晴子 先生



寺井 谷子 先生



西村 和子 先生

協賛企業・団体



〒802-0041 北九州市小倉北区妙見町17-2
TEL 093(921)2292 FAX 093(921)2259
<http://www.myouken.or.jp>
e-mail: info@myoken.or.jp



株式会社 オービット



学術会議運営、イベント企画・運営、各種機材レンタル、WEB

〒806-0067 北九州市八幡西区引野1-5-31-101
tel.093-616-1417 fax.093-616-1418

貸切バス バス広告

市民の幸せを運ぶバス!! 市営バス



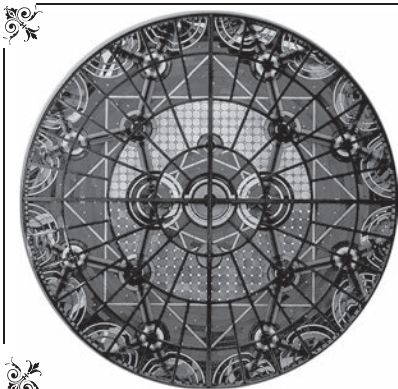
(一社)全旅協正会員 福岡県知事登録 2-126

北九州市交通局

〒808-0017 北九州市若松区東小石町3-1

TEL093-771-0205

FAX093-771-0225



北九州市立文学館

北九州ゆかりの文学者や分野別の文学の流れ、現在活躍する作家など、約250点の資料を展示。

- 開館時間 / 午前9時30分～午後6時 (入館は5時30分まで)
- 休館 / 月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館、翌日休館)
- 料金 / 一般 240円、中高生 120円、小学生 60円

北九州市小倉北区城内 4-1 TEL093-571-1505

● event total produce ■

 **KENBI CO.,LTD.**

北九州市戸畑区沖台 1 丁目 3-8 TEL093-882-9404
www.kenb.co.jp

タクシーのご用命は

 **小倉交通グループ**

総合配車センター

093(541)0007 ●小倉交通株式会社
代表 **093(541)0286** ●平和タクシー株式会社
FAX **093(541)1748** ●コスモポリタンタクシー株式会社

 **TAIYO SOUBI**

イベントのあれこれ解決します。

イベント企画・会場設営・看板製作
大洋装備株式会社

[本社] 〒803-0801 北九州市小倉北区西港町72-3
TEL 093-571-2739・FAX 093-571-2747
URL : <http://www.taiyosoubi.com>

和やかに健やかに

 **希のぞみ**
放課後等デイサービス

**保育士
児童指導員
支援スタッフ募集中**

新卒、第二新卒、未経験者も大歓迎!
お気軽にお問い合わせください。

放課後等デイサービス利用者さんを募集中です。
お問い合わせの上、是非見学にお越しください。

〒800-0257 福岡県北九州市小倉南区湯川1丁目8番9号

TEL093-967-9927

<https://nozomi.care/>

放課後のぞみ

 検索





<http://www.e-yoshimi.jp>



印刷のことならヨシミ工産にお任せ下さい!

企画、制作から印刷までを手がける経験豊富な実績でお客様に満足をご提供いたします!

ヨシミ工産株式会社 〒804-0094 福岡県北九州市戸畑区天神1丁目13番5号
☎(093)882-1661 FAX(093)881-8467

■ 東京営業所 〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目26番1号 本郷宮田ビル3階
■ 福岡営業所 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目23番28号

☎(03)5802-5601 FAX(03)5802-5603
☎(092)481-9559 FAX(092)481-9966

早朝から深夜まで、利便性の高い海上空港

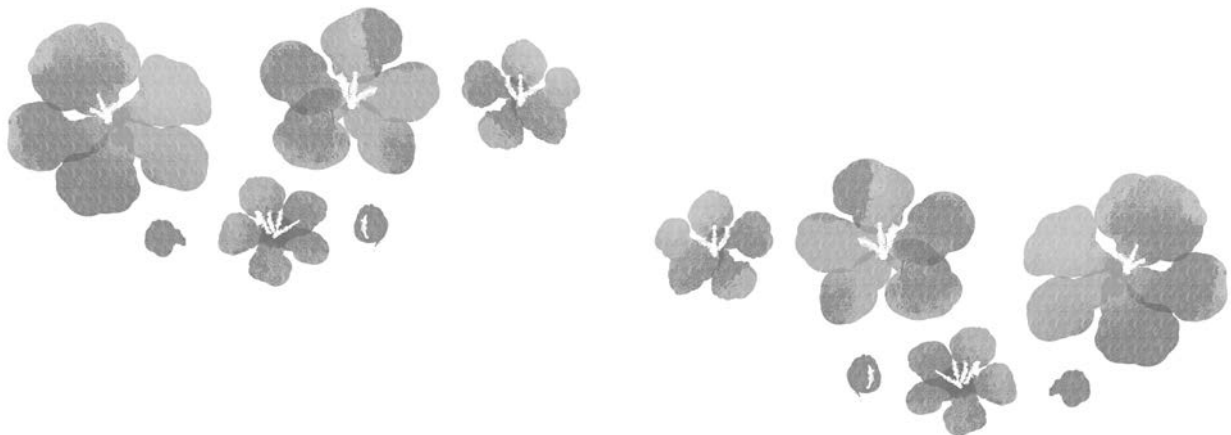
北九州空港

KITAKYUSHU AIRPORT

● 旅客便
◆ 貨物便

2022年9月時点
北九州エアターミナル株式会社
〒800-0306 北九州市小倉南区空港北町6番
TEL 093-475-4195
FAX 093-475-1304
<https://www.kitakyu-air.jp>

便数充実! 早朝・深夜便で便利!!



(公財)北九州観光コンベンション協会

会議・大会・展示会等のイベントを幅広くサポート

「国際コンベンションゾーン」として位置付けられている小倉駅新幹線口地区には、各種コンベンション施設が集積しています。その中でも、西日本総合展示場・北九州国際会議場は、JR小倉駅と直結した絶好のロケーションにあります。当協会では会議、大会、見本市、展示会、イベントなどコンベンション全般の企画から運営までをサポートします。



展示場・会議室のご案内

10～585名までの会議にご利用いただけます。
200㎡～15,000㎡までの展示会にご利用いただけます。
展示場・会議室のご利用はサービス課へ。



北九州国際会議場/メインホール



西日本総合展示場 新館/展示場



AIM 3F/展示場



AIM 3F/会議室

●お問い合わせ・ご予約……………
(公財)北九州観光コンベンション協会
サービス課

TEL:093-541-5931
FAX 093-541-5928

観光・修学旅行、さらにはお土産までサポート



夜景



世界遺産



産業観光



お土産



北九州ならではの逸品がめじる押し!

●北九州観光市場
<https://www.kcta.jp>



●お問い合わせ先 (公財)北九州観光コンベンション協会

〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3-8-1 FAX:093-521-8845
<https://www.hello-kitakyushu.or.jp>

tel 093-511-6848 (代表)

全国俳句大会in北九州実行委員会事務局〈(公財)北九州観光コンベンション協会内〉

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野三丁目8-1 Tel 093-511-6800 FAX 093-521-8845